

事例番号:360060

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第六部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 1 日

4:30 母体発熱(38.8℃)、陣痛発来のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 39 週 1 日

4:39- 胎児心拍数陣痛図で頻脈、変動一過性徐脈を認める

5:10 頃- 胎児心拍数陣痛図で軽度および高度遅発一過性徐脈が頻回  
に出現

6:25 頃- 胎児心拍数陣痛図で基線細変動が増加

7:10- 胎児心拍数陣痛図で高度遷延一過性徐脈、基線細変動の消失を  
伴う徐脈を認める

7:52 胎児機能不全の適応で帝王切開により児娩出

胎児付属物所見 胎盤病理組織学検査で急性の絨毛膜羊膜炎 stage II (Blanc  
分類)

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 1 日

(2) 出生時体重:3200g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 6.83、BE -28.6mmol/L

- (4) Apgarスコア: 生後 1 分 0 点、生後 5 分 0 点
- (5) 新生児蘇生: 人工呼吸(バッグ・マスク)、胸骨圧迫、アドレナリン注射液投与
- (6) 診断等:  
出生当日 重症新生児仮死
- (7) 頭部画像所見:  
生後 14 日 頭部 MRI で大脳基底核・視床に信号異常を認め、低酸素性虚血性脳症の所見

## 6) 診療体制等に関する情報

- (1) 施設区分: 診療所
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師: 産科医 2 名  
看護スタッフ: 助産師 3 名、看護師 1 名、准看護師 1 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、分娩経過中に生じた胎児低酸素・酸血症により低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考ええる。
- (2) 胎児低酸素・酸血症の原因は、急性の胎盤機能不全の可能性もある。加えて臍帯圧迫による臍帯血流障害の可能性も否定できないと考ええる。
- (3) 子宮内感染が脳性麻痺発症の増悪因子となった可能性がある。
- (4) 胎児は、妊娠 39 週 1 日の分娩第 1 期より低酸素の状態となり、その状態が出生まで徐々に進行し、7 時 10 分以降に胎児低酸素・酸血症に至ったと考える。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価(2020 年 4 月改定の表現を使用)

### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は概ね一般的である。

### 2) 分娩経過

- (1) 妊娠 39 週 1 日入院時の対応(診察、超音波断層法施行、血液検査施行、分娩監視装置装着、抗菌薬投与)は一般的である。
- (2) 妊娠 39 週 1 日入院後 4 時 39 分からの胎児心拍数陣痛図で頻脈および軽度

変動一過性徐脈および軽度遅発一過性徐脈が持続している状況で、輸液等の処置を行いながら経過観察としたことは選択肢のひとつである。

- (3) 妊娠 39 週 1 日 5 時 30 分以降の胎児心拍数陣痛図で、頻脈および高度遅発一過性徐脈、軽度ないし高度変動一過性徐脈が出現している状況で、5 時 42 分および 6 時 16 分に胎児心拍数波形レベル 2 と判断したこと、ならびに分娩経過を判断するための内診が 7 時であったことは、いずれも一般的ではない。
- (4) 妊娠 39 週 1 日 7 時に、胎児心拍数が下がるため帝王切開の方針としたことは一般的であるが、7 時以降 7 時 35 分まで経過観察としたことは一般的ではない。
- (5) 7 時 35 分に予定より早期の帝王切開へ変更してから 17 分後に児を娩出したことは一般的である。
- (6) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (7) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

### 3) 新生児経過

- (1) 新生児蘇生(バック・マスクによる人工呼吸、胸骨圧迫、アドレナリン注射液投与)は一般的である。
- (2) 高次医療機関 NICU に搬送したことは一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) 胎児心拍数陣痛図の判読とその対応を「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2023」に則して習熟することが望まれる。
- (2) 切迫早産治療中の抗菌薬多剤使用は控えることが望まれる。

【解説】本事例では、切迫早産治療中にペニシリン系抗生物質の投与、ホスホマイシン系抗生物質の投与、複数種類のセフェム系抗生物質の同時投与が行われていた。抗菌薬使用については薬剤耐性抑制の観点から、必要最低限とすることが望まれる。

- (3) 帝王切開の決定時刻は明確に記載することが望まれる。

【解説】本事例では、帝王切開を決定したと読み取れる時刻が複数記載

されていた。帝王切開の決定時刻は明確に記載することが望まれる。

- (4) 胎児心拍数陣痛図において、胎児心拍数基線や基線細変動が突然変化した場合は、胎児心拍数が正しく記録されているか速やかに確認することが望まれる。

【解説】胎児心拍数陣痛図の判読は、正しく胎児心拍数が記録されていることが前提条件であり、胎児心拍数基線や基線細変動が突然変化した場合には、母体脈拍数等、胎児心拍数以外の波形が記録されていないことを速やかに確認する必要がある。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

急性の絨毛膜羊膜炎が胎盤機能に及ぼす影響について、症例集積および検討されることが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。